

雑司が谷旧宣教師館だより

第26号
2002年12月1日発行

豊島区立雑司が谷旧宣教師館

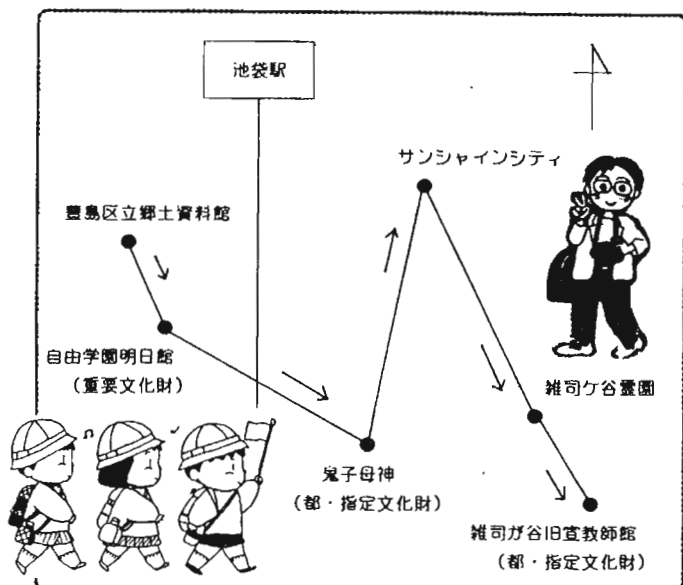
〒171-0032 東京都豊島区雑司が谷1-25-5 ☎/FAX(03)3985-4081

雑司が谷村お宝さがし ウォーク開催

東京都教育委員会では、毎年11月3日から第2日曜日までの約一週間余り、都内の約300件の文化財を一斉に公開しています。区市町村の博物館・郷土資料館にガイドステーションを設け、文化財ウォーク期間のプログラムやガイドマップを配付します。

文化財ウォークには、文化財をより身近に感じてもらうための一斉公開の他に、区市町村が文化財関連の企画事業を行い、当館も平成11年都の指定を受けて以来、コンサートや講演会等の事業を毎年実施しています。

雑司が谷村お宝さがしウォークコース略図



2002年・絵てがみ展と宝さがしウォーク

今年は、1. 戦地から雑司が谷へ絵てがみ200通 一画家を志した岡野誠の遺作展②—
2. 雑司が谷村お宝さがしウォーク、を行いました。お宝さがしウォークは初めての試みで、区内にある数々の歴史的建造物や史跡の中から雑司が谷地域にあるものを巡るものです。今回は上の図のようなコースを歩きました。

区内はもちろん昭島市、三鷹市、葛飾区などの都内や千葉県、埼玉県からも参加があり、約2.8キロの道のりを小一時間で駆け抜けた人、グループで昼食にたっぷり時間を取り、半日がかりで到着した人など中身はそれぞれです。



雑司が谷新発見!

参加者からは、「雑司が谷に児童文化をはじめ、手塚治虫や菊池寛など、こんなにも地縁があるとは大変驚きました」「丁度いい距離、いい時間が過ごせました」「明日館の見学ガイドに運良くぶつかり解説付きでよく分かりましたし、鬼子母神では江戸時代の絵馬の説明をして貰えました。すごく勉強になりました」等....意外な雑司が谷を発見!と反響がありました。このあたりの昔の様子にちょっとだけ触れてみましょう。

江戸時代の雑司が谷

江戸時代の地区のひとつに、豊島区関係は雑司が谷と高田だけが記載されているものがあります。(*1) この絵図には法明寺と鬼子母神が描かれています。これは、それらが江戸の庶民信仰の対象としてすでに知られていたことをあらわしています。当時、鬼子母神の門前には茶屋(料亭)が建ちならびにぎわっていました。名物の風車が売りだされるこの頃です。

大正時代の雑司が谷

明治末期から大正時代にかけて豊島区交通機関は次々と整備され、新興住宅地域として学校の移転、創設が相次ぎます。(*2)

児童文化の創造を唱えた『赤い鳥』の発刊や菊池寛によって『文芸春秋』が発行され、旧雑司が谷地域には童話作家、文学者、画家などの文化人が多く住んでいました。次号で、雑司が谷の歴史と文化の概略を紹介します。

(*1)『江戸図正方鑑』(元禄6(1693)年刊行)

(*2)『豊島区史 通史編二』

来館者の声

*きれいに保存してありますね。今後もしっかりお願いします。（目白/50代/男性/広報としま/初めて/11.3）



*いつ迄もこの館のあることを願います。（文京/60代70代/男女/近所だから/初めて）



*宣教師の方々とともにその頃の日本の世相などもうかがえてとても興味深く見させて頂きました。又、館の中もとてもきれいにできてびっくりしました。（さいたま市/60代/女性/雑誌で/初めて/11.2）



*豊島区にこんな素敵な所があるなど知りませでした。（杉並/60代/女性/東京ウォーキングの本で/初めて/11.28）



取材こぼれ話①

雑司ヶ谷の森に児童文学ルネッサンスを訪ねて

地味な当館ですが、様々な雑誌やテレビ番組の取材が時折入ります。大昔(?)は、映画やトレンディドラマの撮影もあったそうですが、現在は、建物や展示資料紹介以外の取材は全てお断りしています。

建築や旅行・ウォーキング関係雑誌の取材が多いのですが、近刊の『るるぶー東京下町を歩こう』の時、記者は当館作成の雑司ヶ谷文化マップや関係資料に関心を示し、特に大正テモクシー頃の雑司ヶ谷の文化活動に惹かれたそうです。そうして付けられたのが上の見出しです。

ペンの力に驚嘆と感謝!このあたりの事を書いた記事なのに、なぜか眩しさを感じながら読みました。興味の有る方、事務所までどうぞ。

— 近隣の建物紹介 — 護 国 寺

みなさんよくご存じのこの寺は真言宗豊山の名刹で、天和元(1681)年に徳川五代将軍綱吉の生母桂昌院の発願によって創建。綱吉、桂昌院の厚い帰依を受けた亮賢僧正を開山とし、幕府の祈願寺として元禄期に興隆を極めました。現在も広大な境内に散在する建造物群に元禄のころの姿がよく残されています。

本堂は高台の上にあり、桁行7間、梁間7間の大規模な密教堂で、重要文化財に指定されています。手前3間を外陣とし、内・外陣境の柱筋上に華やかな欄間彫刻をいれ、それより後方を内陣、脇陣等としています。

本堂西側の客殿・月光殿も重要文化財で、桃山時代の書院建築の代表的なものです。

最近では、ウォーキング、史跡めぐり、文学散歩などで訪れる人も多くなっているようです。（角田）

所在地：文京区大塚5-40
（有楽町線護国寺駅）

春のフィールドワーク参加募集

前回大好評だった、多児貞子さん（雑司が谷地域研究家）案内の、「雑司が谷を歩くII」を平成15年3月30日（日）（9時30分～12時30分）に実施します。

地元雑司が谷を愛してやまない多児さんが、古老を訊ねながら調べ歩いた地域の歴史～昔の景色にいたるまでまるごと紹介します

雑司ヶ谷霊園では、著名人の墓を巡りながらそれらの人と地域との関わりをお話して貰います。とにかく分かり易く面白いと評判です。ご参加ください。詳細は職員まで。



【編集後記】東京文化財ウィーク期間中、ガイドブックを手にし、「観るぞー!」という意欲たつぷりのハイカーの姿が目立ちます。この催し、定着してきたように感じられます。来年もお宝さがしウォークやります。是非どうぞ!（文責浜地）